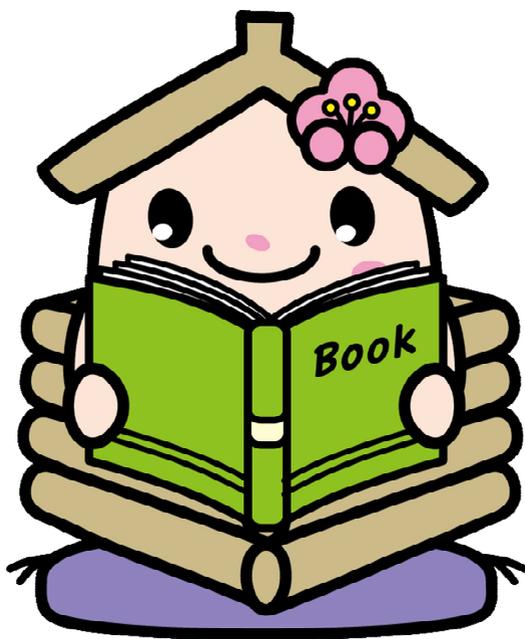


小学校5・6年生におすすめの本

2018

ブックセレクション



酒々井町立図書館

『ゴエさん』 児913ユ

結城乃香／作 朝日学生新聞社

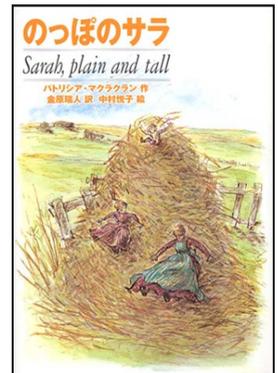
幸太郎は江戸時代から造りししょうゆを営んでいる家の一人息子ですが、家業は経営不振、お父さんはやる気なし、お母さんはイライラ。そんな暗雲立ち込める家に、ある日汚いおじいさんが転がり込んできます。そのおじいさんはずっと昔の約束を守るため、大切なものを探しているというのですが…。



『のっぽのサラ』 児933マ

パトリシア・マクララン／作 徳間書店

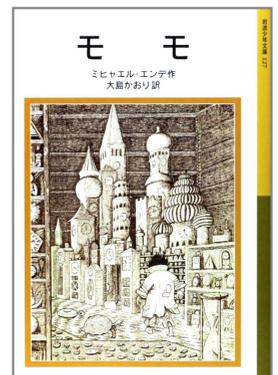
母親を亡くし、さびしい思いをしているアンナと弟ケイレブのために、パパは新聞で新しい奥さんを募集し、それを見たサラがひと月の間来てくれることになりました。サラはのっぽでブサイクですが、いろいろなことを教えてくれます。ママになってくれるのでしょうか。「家族になる」ことを描いた優しい愛の物語。続編『草原のサラ』があります。



『モモ』 児943エ

ミヒャエル・エンデ／作 岩波書店

円形劇場跡に住む不思議な女の子モモ。ある日、モモが住む町に灰色の時間どろぼうたちがやってきて、人々の時間を取り上げていきます。人々は急ぎ、ゆったりとした時間を無くし、その生活は追い詰められていきます。モモは盗まれた時間を取り戻すため、時間どろぼうたちと対決します。



『アンティーク・シオンの小さなきせき』

児913モ

茂市久美子／作 学研プラス

高原の町にひっそりと佇むアンティーク・シオン。そこにはたくさんの古い品物が並んでいます。店のご主人シオンさんが世界各地で出会った品物です。白い野バラの花でドレスを作る『銀の針』をはじめ、6つの心温まる短編集。骨董品が起こす小さなきせきのお話。



『宇宙への秘密の鍵』

ティ933ホ

ルーシー・ホーキング／作 岩崎書店

天才物理学者ホーキング博士とその娘さんが子ども達のために書いた冒険物語。スーパーコンピューターのコスモスによってジョージ少年と友達のアニーが宇宙に行き、星の誕生やブラックホールなど宇宙の神秘を追います。



『大きなたまご』

児933ハ

オリバー・バターワース／作 岩波書店

ある朝、ネイトの家で飼っているメンドリが巨大なたまごを産みました。家族とともにハラハラ見守ること6週間、ついにたまごはかえりますが、出てきたのは…!? 国中の話題になり、大きくなる恐竜を追放しようとする大人たちを前に、ネイトは愛情をもって一生懸命守っていきます。



『おばけ桃が行く』 児 938 タ

ロアルド・ダール／著 評論社

両親を亡くし、ぐうたらで意地悪な二人の叔母に引き取られたジェイムズは、辛い毎日を送っていました。ある日、奇妙な老人から手渡された袋の中身を庭の古木にまくと、家一軒ほどの巨大桃が実ります。中には不気味な7匹の虫達。巨大桃は彼らを乗せ、転がって海に飛び出し、はるかな冒険の旅が始まりました。



『マチルダは小さな大天才』 児 938 タ

ロアルド・ダール／著 評論社

マチルダは、3歳になる前に字が読めるようになり、4歳でディケンズやヘミングウェイを読みこなす天才少女。しかし両親はマチルダを「かさぶた」程度にしかならず、「物知らず」「ばか」と怒鳴ってばかり。また学校には、子どもたちに暴力をふるい、虫けらのように扱う女校長ミス・トランチブルが。そんな横暴な大人たちへ、マチルダは頭脳で立ち向かいます。



『だれも知らない小さな国』 児 913 サ

佐藤さとる／作 講談社

小学3年のぼくはお気に入りの秘密の小山で小さな人（コロボックル）と出会いました。大人になったぼくは、その小山がつぶされる話が広まると、コロボックルたちとその小山を守っていきます。60年ほど前の作品ですが、丁寧に優しく表現され、色褪せない名作。全5巻



『なみきビブリオバトル・ストーリー 本と4人の深呼吸』

赤羽じゅんこ／作 さ・え・ら書房 〔見913ナ〕

参加者が読んで面白いと思った本を持って集まるビブリオバトル。11月3日、並木図書館に4人の小学生が集まりました。4人それぞれの思いをかけたビブリオバトルの幕が上がります。巻末にビブリオバトル公式ルール掲載。続きに『決戦は学校公開日』があります。



『天の鹿 童話』 〔見913ア〕

安房直子／作 ブッキング

鹿打ちの名人、清十さんの3人の娘たちはそれぞれ牡鹿に連れられ、山中の鹿の市に迷い込みます。牡鹿は娘たちの振る舞いを見定めているようですが、たえとあやの言動には苦しい様子を見せます。末娘みゆきと牡鹿の「運命の出会い」を描いたせつなさあふれる物語。スズキコージさんの描く挿絵も幻想的です。



『モギ ちいさな焼きもの師』 〔見933バ〕

リンダ・スー・パーク／著 あすなろ書房

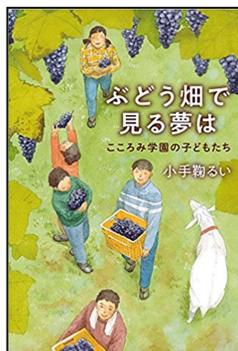
両親を亡くしたモギはトゥルミじいさんに引き取られ、橋の下で暮らしています。二人には働くすべもなく、ゴミ捨て場から食べ物を探さなくてははいけません。モギの楽しみは、名焼き物師ミンの作業をこっそり観察することでした。夢に向かって努力し諦めなかったモギ、貧しくても情けと誇りを忘れないトゥルミじいさん、青磁作り一筋に生きるミンと彼を見守るアジュマ。彼らの生きる姿が心に響く韓国の物語。



『ぶどう畑で見る夢は こころみ学園の子どもたち』

小手鞠るい／著 原書房 見369コ

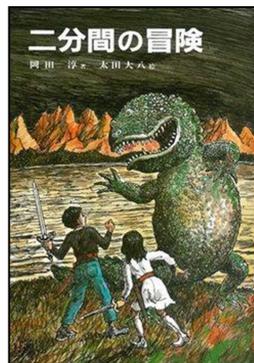
今から50年ほど前、中学校を卒業しても行き場が見つからず、やる気を失っていた知的障害者のために「こころみ学園」が開設されました。汗を流しながら過酷な大自然に向き合い、生き生きとたくましく成長していく子どもたちの働く姿を通して、人として価値ある生き方とはどういうものかが語られています。



『二分間の冒険』 見913オ

岡田淳／作 偕成社

小学5年の悟は、運動場の隅で黒猫ダレカに出会い、異世界に連れて行かれます。元いた場所に戻るにはダレカを見つけなければなりません。ただし、ダレカは猫の姿をしていないこと、何かの姿ですが、この世界で一番たしかなもの姿であること。一番たしかなものとは何なのでしょう。悟の長い長い二分間の冒険が始まりました。

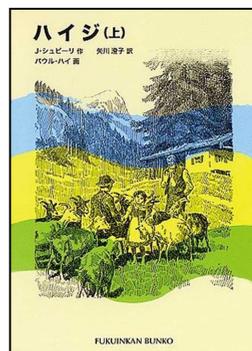


『ハイジ』 ティ943ス

J・シュピーリ／作 福音館書店

頑固で人付き合いの悪いアルムじいさんのもとへ、ある日孫娘のハイジがやってきます。ハイジはその優しさ、明るさで、病弱なクララやたくさんの人たちを励まし、元気にします。

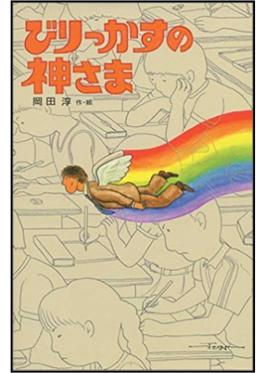
一度はぜひ手に取ってほしい古典の名作。あたたかな気持ちになれる物語。



『びりっかすの神さま』 児913才

岡田淳／作・絵 偕成社

木下始は、転校した4年1組の教室で、透き通った男の人が空中をパタパタと飛んでいるのを見ました。その背中には小さな翼。驚く始でしたが、その男の人はどうやらクラスでビリになった子のところへ行くようだと思いが付くと、始はわざとビリになり、その男の人と話をし、仲良くなります。



『魔女の宅急便』 児913カ

角野栄子／作 福音館書店

13歳の満月の夜、魔女の子キキはひとり立ちの旅に出ました。使える魔法はほうきで空を飛ぶことだけ。たどり着いたコリコの町で、空飛ぶ宅急便屋さんを始めます。相棒の黒猫ジジと悩みや喜びを分かち合いながら、成長していく一年間を描いています。全6巻



『小さなバイキングビッケ』 児949ヨ

ルーネル・ヨンソン／作 評論社

ビッケのお父さんはフラーク地方のバイキング族長。大人の海賊に交じってビッケも旅に出ます。スパイ、変装、時には話し合い。決して相手を傷つけません。ビッケから火花が飛び散ったら作戦がひらめいた合図。知恵を働かせてお父さんや仲間のバイキングたちを助けます。小さなバイキングビッケのゆかいな物語。全6巻

